



news release

ポケットカード株式会社 (8519) 平成22年2月期 第3四半期連結決算 (概況)
 営業収益 283 億 13 百万円、経常損失 18 億 64 百万円、四半期純損失 11 億 26 百万円

ポケットカード株式会社 (8519) の平成22年2月期第3四半期連結決算は、割賦購入あっせん部門、並びにプロセシング部門が順調に推移しましたが、消費者金融マーケット縮小に伴うキャッシング取扱高の減少、上限金利の引き下げ等により融資部門が減収となり、営業収益全体では283億13百万円（前年同期比3.1%減）となりました。

費用面においては、業務全般においてコスト削減に努めましたが、利息返還請求並びにその先行指標となる介入債権が高水準で推移したことによる関連費用の増加、並びにプロセシング部門の急拡大に伴う先行費用の増加等により営業費用が増加し、営業損失は18億61百万円、経常損失は18億64百万円、四半期純損失は11億26百万円となりました。

割賦購入あっせん部門につきましては、ショッピングリポ拡大への各種取り組みが順調に推移した結果、営業収益は前年同期に比べ8億99百万円増加の、63億71百万円（前年同期比16.4%増）となりました。

プロセシング部門につきましてはプロセシング受託件数の増加、並びに保証債務残高の拡大により、営業収益は前年同期に比べ7億3百万円増加の25億93百万円（前年同期比37.3%増）となりました。

融資部門につきましては、消費者金融マーケットの縮小に伴うキャッシング取扱高の減少に加え、貸金業法の完全施行を見据えた上限金利の引き下げ等を進めた結果、営業収益は前年同期に比べ24億89百万円減少の184億78百万円（前年同期比11.9%減）となりました。

以上の結果、営業収益全体では前年同期に比べ8億93百万円減少の283億13百万円（前年同期比3.1%減）となりました。

費用面につきましては、業務効率化を進め各種コスト削減に努めましたが、利息返還請求並びにその先行指標となる介入債権が高水準で推移したことによる関連費用の増加、プロセシング部門の急拡大に伴うカード発行費用等の先行費用が増加したこと等により、営業費用全体では前年同期に比べ27億74百万円増加し、301億74百万円（前年同期比10.1%増）となりました。

以上の結果、営業損失は18億61百万円、経常損失は18億64百万円、四半期純損失は11億26百万円となりました。

【単位：百万円】

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益
平成22年2月期 第3四半期連結業績	28,313	△1,861	△1,864	△1,126
平成21年2月期 第3四半期連結業績	29,206	1,806	1,813	1,314
前年同期比	△3.1%	—	—	—

以上